

テスト

フィードバックして教材を改善する(Plan-Do-Seeの部分)
#ここに関しては2ページ目のフォローアップを参照
 テストで何を評価しているのか

テストで何を評価しているのか

- = 学習者が, 自分の位置や知識をはかるためのもの
- = 教授者が, 自分の教え方や学習法略を改善するためのもの (See のためのツール)

絶対評価と相対評価 / 整合性と弁別性

「リコーダーでドレミを吹くことができる」「なわとびで二重跳びが10回できる」= 絶対評価
 できたかどうかを確かめられるテストが必要 = 整合性

「あなたはクラスで 番目だよ」= 相対評価
 差をつけるテストが必要 = 弁別性

「...授業時間の最後に行うことで, リアルタイムで子供たちの習得状況が分かると同時に, 教師にとっての授業改善の道具にもなる。」(石原,2002)

「(いいところみつけ, を導入したことで) 個人内でよくなっていくところを看取っていける」
 (「IT活用による元気な学校づくりセミナー」より, 2003)

性質別のテスト3種類 (認知 運動 情意領域)

第3章であった学習目標を測るために, 学習課題に分類し, それに適したテストの性質を見極める必要がある。

{	言語情報	教えたことを覚えているかテストする	(あたまでわかる)
	知的技能	教えたことの発展をテストする	(あたまでわかる)
	運動技能	覚えているだけでなく, 実際にできるかどうかテストする	(体でわかる)
	態度・情意	心から分かっているかどうかテストする	(心でわかる)

「態度」の学習 = 「分かっているなら出来るはずだ」という前提で印象とか, 分析がある。

SD(Semantic Differential)法, 意味微分法, 印象分析法

例) 就職試験の適性試験テスト

好き - 割と好き - 普通 - 割と嫌い - 嫌の5段階のような

//

eKABA でテストを作ったときの例にあてはめてみる

学習課題	言語情報
課題の性質	指定されたものを覚える
課題の例	ITに関する基礎的な知識
目標行動を表す言葉	述べる 言う 説明する
評価の観点	再認法式 : 多肢選択式

eKABA では事前/事後テストを行った

評価の目的:

教材設計者が, 学習者の知識の量をはかるため。

(学習者が自分の位置を確かめる, という目的はうすい)

苦労した点:

事前/事後でテストの出題内容が異なり, 弁別性が事前/事後でまったく同じであったかは定かではない。

全部で7つのカテゴリーから出題したが, 出題した問題が各カテゴリーを代表するものだったか定かではない。

この辺の実際のテスト作りは経験値か (経験値があっても理屈がなきゃだめか)

輪講後のフォローアップ

第3章でフォローされているが、テストには前提・事前・事後テストがある。

前提	入口	前提条件	資格があるか
事前	入口	学習目標	必要があるか
事後	出口	学習目標	合格かどうか

ここでいうテストというのは「教材の出来具合を確かめるため」のテストではない。学習者が教材を試す前や後に受けるペーパーテストのことを指す。学習者が受けるテストも、教材設計者にフィードバックすることで出来具合を確かめることができるという意味です。